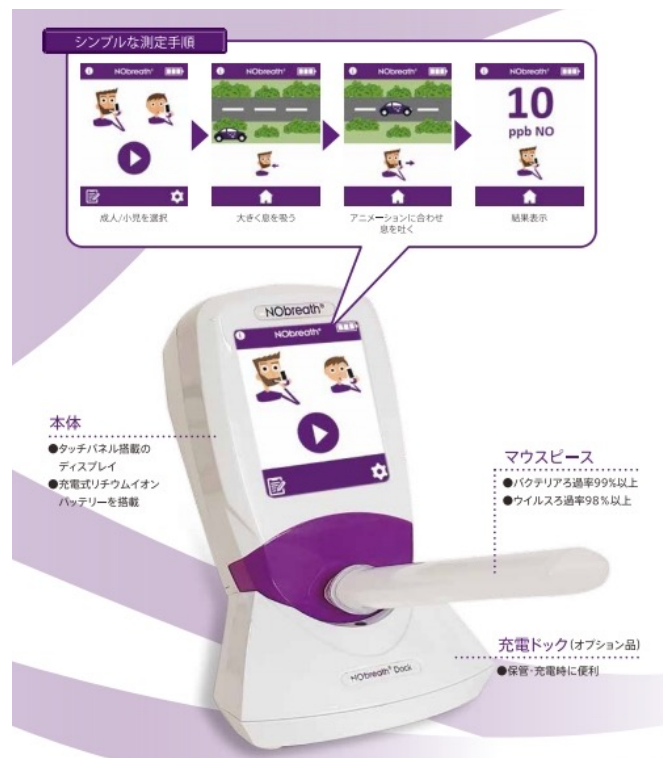


呼気一酸化窒素（FeNO）測定検査について

気管支喘息とは気道の炎症によって気道が狭くなる病気です。喘息の方の気道は、炎症によって粘膜がむくみ、分泌物が増え、敏感になっているためにちょっとした刺激（ほこり、たばこ、風邪など）でさらに気道が狭くなるため、咳が止まらなくなり苦しくなります（喘息発作）。

近年、健常者と比べて気管支喘息患者の呼気中に多量の一酸化窒素（NO）が存在することが証明され、呼気NO濃度を測定することで喘息の診断だけでなく、その重症度や治療の評価にも有用であることが分かってきました。特に軽症の喘息では胸部聴診でも喘鳴が聴取されないことが多く診断に難渋しますが、気道の炎症は気道狭窄と関係なく評価することが可能であるため、軽症の喘息の診断にも有用です。



検査方法：

マウスピースを加えたままで、アニメーションに合わせて12秒

（小児は10秒）息を吐きます。これを3回繰り返して検査は終了です。

結果はすぐに数値化されて表示されます。

小児でも検査可能ですが、10秒間息を吐き続けられない場合は検査中止とします。当院では6歳以上を目安としています。

検査料：保険診療の検査です

720円（3割負担の方）、月に1回検査できます